

ジェンダーに配慮したトイレ

性自認に関わらず、利用しやすいトイレとは？

株式会社LIXIL

2023年3月改訂

性的マイノリティへのトイレ配慮については、パブリックトイレの情報に特化した公式WEBサイト「LIXILパブリックトイレラボ」の「[性的マイノリティ](#)」のページもぜひご覧ください。



利用者視点で考える

性的マイノリティ



「LIXILパブリックトイレラボ」で検索

CONTENTS

	ページ
1. ことばの定義	… 3
2. LIXILの基本的な考え方：LIXILがめざしていること 機能分散について	… 3
3. トランスジェンダーのトイレ利用を困難にしている「要因」は？	… 4
4. 性自認に関わらず、利用しやすいトイレ整備の考え方：4パターン	… 5
パターン 1 男女別トイレ内の仕様を工夫する	… 6
「男女別トイレ」内の工夫例	
「男女別トイレ」において、シスジェンダーと異なる点	
トランスジェンダー（性別違和のある人）が、男女に分かれたトイレを 利用しづらい理由（例）	
パターン 2 多機能トイレを「All genderトイレ」として位置付ける	… 8
サインの事例紹介	
事例紹介 / 多機能トイレのサインと設置数	…12
一方で、多機能トイレには課題も…	…13
/ なぜ、多機能トイレの利用を「気まずい」と感じてしまうのか？	
パターン 3 男女共用広めトイレの設置	…14
参考モデルプラン	
「男女共用トイレ」への抵抗感を減らすための工夫や計画のポイント	…15
事例紹介	
パターン 4 すべて個室のトイレとし、選択できるようにする - オルタナティブ・トイレの導入	…16
事例紹介	
オルタナティブ・トイレに至る経緯	



1. ことばの定義

ここでは、シスジェンダー、トランスジェンダーを以下のように定義しています。



シスジェンダー : 出生時に付けられた性別^{注1}と性自認^{注2}が一致している人
トランスジェンダー : 出生時に付けられた性別と性自認が一致しない人

注1. 出生時の生物学的な性をもとに判断された性別。男性／女性の二者択一で、日本では出生届をもとに、戸籍や住民票などに記載される。

注2. 自分の性別をどう認識しているかの概念。「心の性別」ということもある。

※関連用語については、LIXIL User Survey Report（以下「レポート」） vol.1-2をご参照ください。

2. LIXILの基本的な考え方

LIXILがめざしていること



「トイレへのアクセスは基本的な人権のひとつ」という考えのもと、誰もが安心して快適に利用できる、インクルーシブなパブリックトイレ空間をめざしています。

「性の多様性の尊重」の観点から、以下の点が重要と考えます。

✓ 一人ひとりの**性自認、プライバシーと尊厳が尊重**され、利用者の意思に沿う**選択肢がある**こと。かつ、それらを**利用しやすい環境**を整えること。

✓ そのためには、建築的ハードの整備のほか、利用者一人ひとりの理解、施設運営側や組織の積極的取組など、「意識のバリアを取り除くこと」（ソフト対応）も必要。

※学校や職場などの場合は、本人の希望による個別対応も重要です。

選択肢とは？ … バリアフリートイレ（多機能トイレ含む）、男女別トイレ、男女共用トイレなど。

利用しやすい環境を整えるとは？ … 性自認に沿った男女別トイレを利用したり、男女共用トイレを利用したりすることが、当たり前を受け入れられる社会をめざすことです。

機能分散について



✓ 国土交通省は、多機能トイレの利用集中を緩和させるため、オストメイト、乳幼児連れ配慮設備を一般トイレや男女共用エリアに分散させる「機能分散」を推奨しています。

✓ バリアフリー建築のガイドラインである「建築設計標準[※]」では、2021年3月の改正にて「多機能」「多目的」等、利用対象とならない方を含め、誰でも使用できるような名称を推奨しない方向となりました。しかし一方で、「多機能」であることが利用しやすさに繋がっている人もいます。（建築設計標準では、車椅子利用者用便房などを総称して「バリアフリートイレ」と位置付けています）

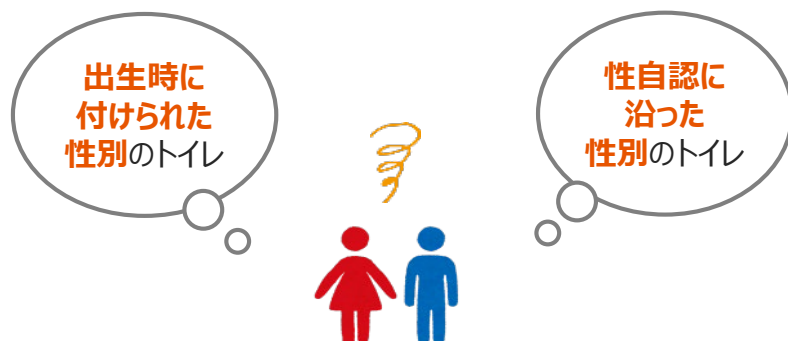
✓ 多機能トイレへの利用集中緩和のためには可能な限り「機能分散」させることが望ましいですが、多機能トイレの設置数が少ないことも利用が集中する要因のひとつと考えられます。機能を分散させることに加え、車椅子で使えるトイレの数を増やすことや、「多機能トイレ」の複数設置も重要な視点です。

※車椅子ユーザーや乳幼児連れの人以外で多機能トイレを必要としている人については、レポートvol.8をご参照ください。

3. トランスジェンダーのトイレ利用を困難にしている「要因」は？

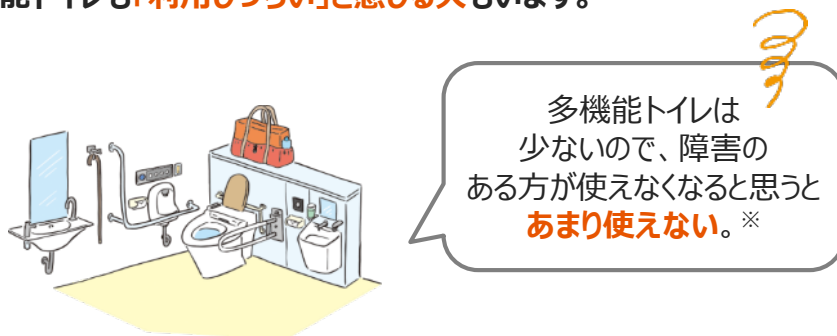
- トランスジェンダーには、**利用したいトイレが利用できていない人が多い。**
- その要因のひとつに、「**出生時に付けられた性別**」と「**利用したいトイレの性別表記**」が**一致しないことが多い**という点が挙げられる。

シスジェンダーの多くは、目の前にある男女別トイレのどちらに入るか**迷わず選択します（考えない）**。
しかし、トランスジェンダーの中には、**どのトイレを利用するか「選択のストレス」を抱える人もいます。**



男女に分かれたトイレは利用しづらいことから、**性別を問わない「多機能トイレ」**を利用する人もいます。

しかし、中には**多機能トイレも「利用しづらい」と感じる人もいます。**



トイレを利用する度に**迷いや不安を感じ、気を遣うため**、場合によっては入ることを**諦め、我慢する**人もいます。



トイレへの「アクセス自体」が問題となっている！

トイレへのアクセスをしやすくするために、「**選択肢があること**」は**大変重要**です。

4. 性自認に関わらず、利用しやすいトイレ整備の考え方：4パターン

性自認に関わらず、利用しやすいトイレ整備の考え方



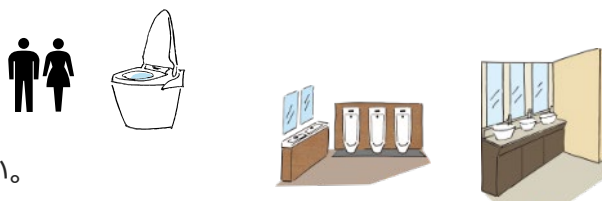
- ✓ 大きくは以下の**4つのパターン**が考えられます。
- ✓ 実際の現場では、建築物の用途や規模、利用者属性などに応じて都度考える必要があり、**「正解」はありません。**
- ✓ これらの中からどれか一つを選ぶのではなく、**組み合わせで検討**することも必要です。

パターン 1

男女別トイレ内の仕様を工夫する

- ✓ 男女別トイレでできることを行う。

➡ レポートvol.6-7 もご参照ください。



パターン 2

多機能トイレを「All genderトイレ」として位置付ける

- ✓ 多機能トイレ（バリアフリートイレ）がない場合は設置する。
- ✓ 利用集中緩和のために**複数設置**する。
- ✓ 必要な人が利用しやすいよう、**運営やサインなどを工夫**する。

➡ 一般的によく見られる対応。特にオフィスや学校で目立つ。



パターン 3

男女共用広めトイレの設置

- ✓ 多機能トイレ（バリアフリートイレ）とは**「別の選択肢」として設置**する。
- ✓ 性別を気にせず、気軽にかつ落ち着いて利用できる**個室トイレ**とする。

➡ レポートvol.4-5 もご参照ください。



パターン 4

すべて個室のトイレとし、選択できるようにする - オルタナティブ・トイレの導入

- ✓ オルタナティブ≡新しい**選択肢**の意。
- ✓ 車椅子ユーザー、オストメイト、乳幼児連れに配慮したトイレ（多機能トイレを含むバリアフリートイレ）、男女別トイレ、男女共用の個室トイレを設置し、**利用者が選択**できるようにする。

- ✓ トランスジェンダーの中には、**男女別トイレ**を利用したい人や、**実際に利用している人も**少なくない。
- ✓ ささまざまな困りごとがある中、すべてを解決するのは難しいが、中には**プランや設備を工夫することで解決できることもある。**
- ✓ 「特別な配慮」ではなく、**一般的なトイレ配慮と同じ。**
- ✓ トランスジェンダーの困りごとを解決することで、シスジェンダーも含めて**誰もが安心して快適に利用できるトイレになる。**

「男女別トイレ」内の工夫例

1. 入口まわり

並んでいるときの視線を逸らす工夫

- ✓ 出入口の通路に装飾を施すなど

順番待ちで並ぶ時に周囲の視線が気になる

【参考事例】——「LIXIL施工事例」で検索！

○真言宗総本山 東寺駐車場内 観光トイレ

- ✓ 出入口の通路に「絵巻」を展示
- ✓ 上下の隙間をなくした大便器ブースの仕切り
- ✓ 小便器間の仕切りの設置
- ✓ 十分な器具数の設置

※PDFでは、事例名称をクリックすると詳細シートがご覧いただけます。

2. 大便器まわり

個室の数を増やす・見直す（特に男性用トイレ）

- ✓ 出生時に付けられた性別が女性のトランスジェンダーは、体の構造上**小便器の利用は困難。**
- ✓ 仕方なく男性用トイレを使っている場合^{注1}、なるべく個室を使いたい人もいる。また、シスジェンダー男性の中にも小便器を使いたくない人はいる。（小用時に大便器を利用する男性は増加傾向）
- ✓ 適正な器具数を確保することで**待ち時間が短縮され、待つ間の気まずさの緩和**にもつながる。

男性トイレの個室をもっと増やしてほしい



ブースの仕切りは床から天井まで塞ぐ

- ✓ プライバシー感が高まり、安心して使えるように。
- ✓ 防犯性もアップ。



個室が天井まで囲まれていたら安心

個室で用を足すとき、音漏れしないか気がでない

男性用トイレにも「サニタリーBOX」や「擬音装置」の設置を

- ✓ 男性用トイレを利用するトランスジェンダー男性の中には、生理のある人もいる^{注2}。
- ✓ 近年、尿とりパッドを使用する人のために、男性用トイレにもサニタリーBOXを設置する動きが広がつつある。
- ✓ トランスジェンダーの中には、大便器での**男女の排尿音の違い**を気にする人も・・・
- ✓ 音のプライバシーを確保すれば、皆がより安心して使える。

生理用品を捨てるダストBOXがない



3. 小便器まわり

小便器間に仕切りを設置／小便器のレイアウトで工夫

- ✓ 小便器間に仕切りがあれば、**視線が気になりにくく、安心して使える**
- ✓ 小便器を**カーブ状や斜めに配置**することで、視線が気になりにくい

小便器で用を足しているとき、隣の人の視線が気になる



【参考事例】——「LIXIL施工事例」で検索！

○狭山市立南小学校

- ✓ 小便器をカーブ状や斜めに配置

○某大学（愛知県）

- ✓ 小便器まわりのプライバシー配慮
- ✓ 手洗器付個室で用足し後もさっと出られる。

注1. 出生時に付けられた性別が男性のトランスジェンダーの中には、やむを得ず男性用トイレを利用している人もいる。

注2. 性別違和の緩和のために、男性／女性ホルモンの投与を受ける人もいる。出生時に付けられた性別が女性のトランスジェンダーの場合、男性ホルモンの投与により生理は停止するが、投与の中断や体調により再開することがある。また、ホルモン療法は現在全額自己負担であり、年齢等の条件もあるため誰でもできる訳ではない。

※吹き出し内コメント出典：性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査2015（LIXIL、虹色ダイバーシティ）

「男女別トイレ」において、シスジェンダーと異なる点

押さえて
おきたい
ポイント!



出生時に付けられた性別のトイレ（出生時の戸籍の性別のトイレ）

自認する性別のトイレ（性自認に沿ったトイレ）※1

の2種類が存在する

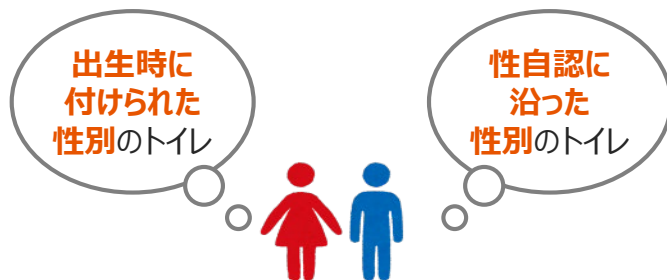
ただし、どちらのトイレを利用するかは、その人の性別違和の程度や性別移行※2の有無、移行の段階、本人の置かれた状況や周囲の環境などによりさまざまで、一人ひとり異なる。

中には、希望とは関係なく「出生時に付けられた性別のトイレ」を使わざるを得ない人もいる。

「自認する性別のトイレ」を利用するには、周囲の「意識改革」も求められる（レポートvol.7もご参照ください）。

※1.性自認が男女どちらでもない、決めたくない人のように、男女どちらのトイレも「自認する性別のトイレ」には当てはまらない場合もある。

※2.外見や身体を性自認に近づけるために、服装や髪型を変えたりホルモン治療や手術を受けたりすること。

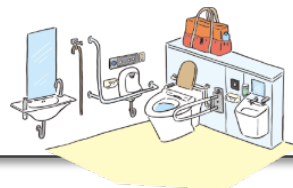


しかし、トランスジェンダーの中には「男女に分かれたトイレは利用しづらい」という人もいます。

トランスジェンダー（性別違和のある人）が、男女に分かれたトイレを利用しづらい理由（例）

- ✓ 「出生時に付けられた性別のトイレ」は使いたくないが、性別移行はしていないので「逆の性別のトイレ」は使えない。
- ✓ **性別移行中**である。
- ✓ 職場や学校で「自認する性別のトイレ」を使うには、**周囲にカミングアウト**しなければならない。
- ✓ カミングアウトしても受け入れてもらえるかわからない。でも、「出生時に付けられた性別のトイレ」を使うのも**苦痛**。
- ✓ 性別移行後も諸事情で戸籍の性別を変更できず、自認する性別のトイレの利用に**躊躇いがある**。
- ✓ **性自認が男女の枠に当てはまらない**（Xジェンダー、ノンバイナリー）ため、どちらのトイレも使いたくない。

➡ このような状況の人の中には、「多機能トイレ（多目的トイレ）」を使いたい人もいる。



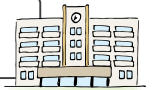
➡ NEXT STEP : パターン2

- ✓ 多機能トイレ（バリアフリートイレ）は異性介助への配慮から男女共用であることが多く、**性別を気にせずに利用することが可能。**
- ✓ さまざまな人の利用が想定されており、利用時に紛れることができる。そのため、**心理的安心感がある。**
- ✓ 表示やサインを工夫する。例えば、「だれでもトイレ」や「みんなのトイレ」などの名称にする、「どなたでもご利用ください」、「All gender」などの表記を追加するなど**“包摂的表現”**とすることで、**必要な人が気兼ねなく利用できる。**
- ✓ 利用集中緩和のために、建物に1か所ではなく**複数設置**する。



サインの事例紹介

大学では、構内のどこにあるかを示すマップを作成しているケースが多く見られる。



バリアフリートイレ（多機能トイレ・多目的トイレ含む）のサインは車椅子のピクトで表されるが、男性／女性を表すピクトやその他さまざまな利用者を表すピクト、文字のみで表現した例などがみられる。

※PDFでは、事例名称をクリックすると詳細シートがご覧いただけます（大阪大学を除く）。

1) 新見公立大学 地域共生推進センター棟

「LIXIL施工事例」で検索！

- 「**みんなのトイレ／Universal Restroom**」という名称で、車椅子のほか「**男女のピクト**」、「**機能を表すピクト**」を表示している。



2) 上三川町立上三川小学校 屋内運動場

「LIXIL施工事例」で検索！

- トイレ名の表記はなし。**さまざまな利用者を表すピクト**と「**どなたでもご自由にお使いください**」の文言がある。



3) 大阪大学

- 「みんなのトイレ」と表示する例もあるが、「**性別を問わない空間**」を表示する「**ALL GENDER**」を使用。**ジェンダー多様性の啓発の意味をこめて**、このまま英語表記を採用している。「**シングルジェンダーのトイレ**※¹に入りにくい」、「**自分も安心して使ってOKという表示があれば**」という、**多様な性別をもつひとたちの声も反映**されている。
- 上記のほか、女性は赤色でスカート、男性は青色でズボンといった、女性または男性を可視的に表現するマークではなく、**特定の性別イメージにとらわれない多様な性別への配慮となるデザイン**として「**WOMEN**」「**MEN**」の英語表記の**サインも採用**している。
- **2017年7月にSOGI**※²基本方針と同時に、これらのトイレサインをSOGIに関する取り組みの第一歩として公表している。
- 学内の新設及び改修される建物には、順次「**ALL GENDER**」サインの使用を進めている。

【参考】大阪大学 ダイバーシティ&インクルージョンセンター「ALL GENDER トイレ・サイン」
<https://www.di.osaka-u.ac.jp/allgendersign/>



※1. シングルジェンダーのトイレ：男性用トイレまたは女性用トイレのように、男女どちらかのみを想定したトイレのこと。

※2. SOGI（ソジ）：性的指向（Sexual orientation）と性自認（Gender identity）の英語の頭文字を組み合わせた言葉。誰もが持っている性の要素。（関連用語についてはレポートvol.1をご参照ください）



事例紹介

「LIXIL施工事例」で検索！

※PDFでは、事例名称をクリックすると
詳細シートがご覧いただけます。

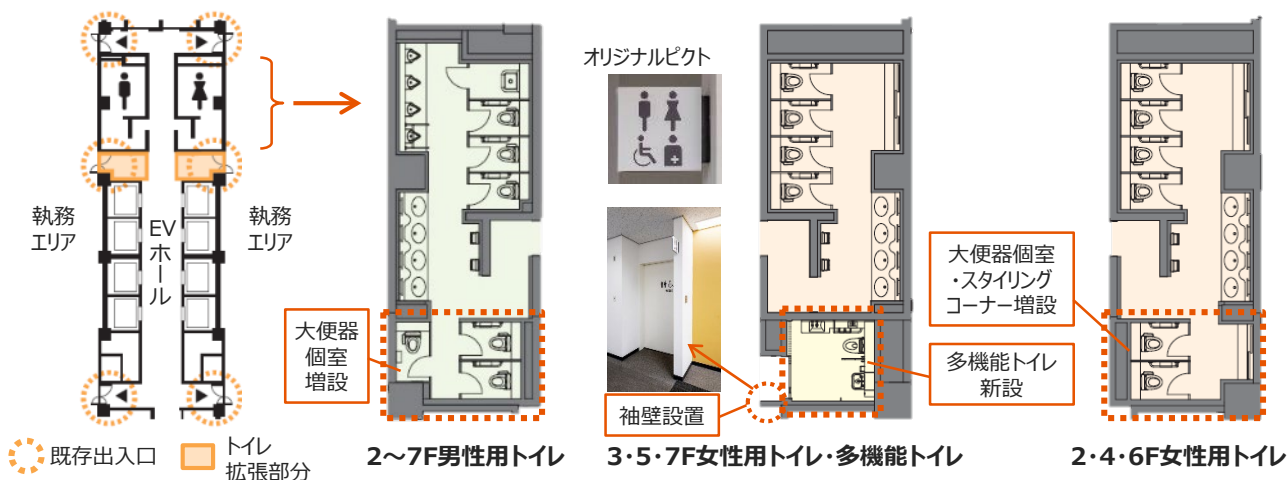
*LIXIL本社は、2022年11月に移転しました。
*情報は、2022年までのものです。

1) LIXIL WINGビル KAZE (LIXIL旧本社ビル)

- ▶ 本社機能の移転・集約による従業員増（当時）に備え、全フロアのトイレを改修（2018年9月竣工）。
- ▶ 東西執務室への出入口各3ヶ所のうち、活用していなかった中央出入口の部分を利用してスペースを拡張。
- ▶ トイレサインはLIXILオリジナルピクトで統一。車椅子ユーザーやオストメイトの方、性の多様性などに配慮し、多様な従業員誰もが安心して利用できるトイレを目指した。
- ▶ 基準階の奇数階（3・5・7F）には、女性トイレ側にオストメイト対応流し付の多機能トイレを新設。エレベータ側から出入りが見えにくいよう袖壁を設置。ドアには「どなたでもご利用ください」と明記。
- ▶ その他配慮：男性用トイレにも擬音装置を設置、大便器個室の増設。

Before

After (トイレ部分)



2) 習志野市庁舎 (千葉県内自治体庁舎の事例)

- ▶ 安全・安心を最優先に、「市民が誇れる、開かれた庁舎」をめざしている。
- ▶ すべての階に「だれでもトイレ」を設置。「性別を問わないトイレ」を必要としている方が利用しやすいよう、「どなたでもご利用ください」と明記。
- ▶ その他配慮：プライバシー性の高い大便器ブース、男性用トイレにも乳幼児用いすを設置など。

「多機能トイレ」のサインと設置数

※レポートvol.8もご参照ください

- ✓ 近年、トランスジェンダーへの「配慮」として、6色の虹のマークや男女半々のピクトを貼付するケースが見られたが、**当事者の間では不評**。
- ✓ 「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査2017（金沢大学、コマニー、LIXIL）※」にてトランスジェンダーにヒアリングを行ったところ、「特別なマークは不要」、「誰でも利用できることが明記されていると利用しやすい」という声が多かった。
- ✓ トランスジェンダーだけでなく、さまざまな事情で多機能トイレを利用している人がいるが、必要としている人に対して数が不足しているという現状もある。



一方で、多機能トイレには課題も・・・

- 多機能トイレで待たされた経験のある車椅子ユーザーが72%という国土交通省の調査もある。

※調査データ出典：共生社会におけるトイレの環境整備に関する調査研究, 2018年度（国土交通省）

- LIXILの調査では、トランスジェンダー回答者の約6割が「だれでもトイレ利用時に気まずい」と回答。

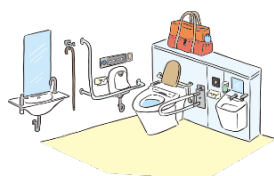
※調査データ出典：性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査2015（LIXIL、虹色ダイバーシティ）

➡ レポートvol.5 もご参照ください。

なぜ、多機能トイレの利用を「気まずい」と感じてしまうのか？

- 要因のひとつ：トランスジェンダーは、その困難が「可視化されにくい」ため、周囲の理解を得にくい。

「冰山モデル」で見てみると・・・



車椅子ユーザー、高齢者、乳幼児連れ



トランスジェンダー

（オストメイトなど
内部障害のある人）

- ✓ 「目に見える」わかりやすい存在
- ✓ 「利用者」として周囲が認知している

見える

見えにくい

トイレ利用は、
人間の尊厳にも関わる
人権のひとつ
であることに変わりはない

- ✓ 「見た目」が「健常者」と変わらない

- ・「なぜ使うのか？」と思われるのではないかと
いう不安が付きまとう。
- ・実際に、注意を受けるケースもある。

NEXT STEP : パターン3 ➡

- ✓ 多機能トイレとは**“別の選択肢”**として、性別を気にせずに、気軽に利用できる個室トイレを設置。
- ✓ 多機能トイレ利用時の**気まずさを解消し、利用集中を緩和**させる効果が期待できる。
- ✓ **用足しから手洗いまで完結**できる、壁で仕切られた個室トイレをイメージ。
- ✓ 手洗器があるため、一般的な大便器ブースより**“広め”**。
- ✓ 性別違和のある人だけでなく、**異性の子どもを連れた保護者、介助や同伴をする人が異性の場合**（例：知的・発達障害のある人、視覚障害のある人、認知症の人、高齢者）など、「男女に分かれたトイレを利用しづらい人」への配慮にもなる。



「男女共用広めトイレ」については、こちらのWEBサイトもぜひご覧ください。

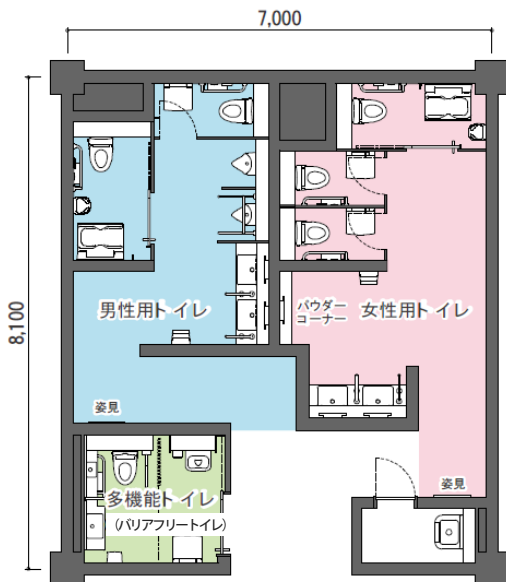
LIXILパブリックトイレラボ [「男女共用広めトイレ」](#)



参考モデルプラン

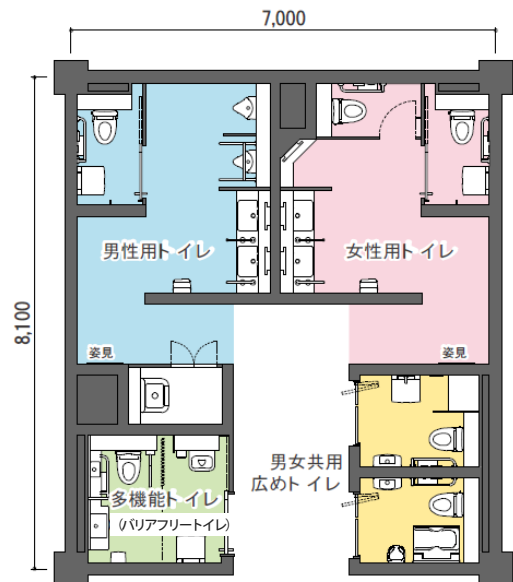
- 中規模の公共施設をイメージ（例：地域の伝統行事を伝える無料開放の資料館）
- スタンドモデルプラン：コンパクトながら、きめ細かく配慮ポイントをおさえたプラン。
- NEXTモデルプラン：スタンダードプランでの配慮はそのままに、全体の空間サイズは変えずに男女共用の広めトイレを2カ所設置（図では、異性介助に配慮したトイレと乳幼児連れに配慮したトイレを設置）

スタンダードモデルプラン



- 多機能トイレ（バリアフリートイレ）を設置。
- 男女別トイレには乳幼児連れ配慮ブース（個室）を設置。

NEXTモデルプラン



- 全体の空間サイズは変えずに「男女共用広めトイレ」を2カ所設置。
- 広めトイレは、落ち着いて利用できるよう安全性はもちろん、清潔、音、ニオイ、換気などに配慮した内装やしつらえとする。
- サイズや内部設備は、条件・状況に応じて個別に検討し、利用者は限定しない。

「男女共用トイレ」への抵抗感を減らすための工夫や計画のポイント

- 「トランスジェンダー用トイレ」のようになっては意味がない。**シスジェンダーも同様に利用することがポイント。**
- 男女共用トイレに抵抗を感じる人（特に女性）も少なくないため、**利用しやすい工夫**が求められる。

Point 1

「清潔」
「ニオイ」「音」
への配慮

Point 2

落ち着いて
利用できる

Point 3

利用が不自然にならない
（「使う言い訳」
ができる）

職場に「男女共用トイレ」があっても使わない理由として「性的マイノリティではないかと思われそう」と回答したトランスジェンダー：23%※

個室のしつらえの工夫

- ✓ **広め**にする
公共施設の場合は、見守りや介助の同伴者が一緒に入れる広さがおすすめ。
- ✓ 温水洗浄便座や着替え台など **+αの設備を充実**させる
- ✓ **ちょっと良い内装**にする



設置場所の工夫

- ✓ **「ついでに利用できる場所」**
 - ・学校：図書室や美術室等学年を問わずみんなが使う特別教室の近くなど。
 - ・職場：食堂や休憩室、会議室など。
 - ・公共施設全般：エントランス、休憩や自販機スペースの近くなど。
- ✓ **「安心して利用できる場所」**
 - ・学校：保健室、カウンセリングルーム、職員室の近くなど、**大人が見守りやすい場所。**
 - ・一般的：**わかりやすい場所、死角になりにくい場所。**
な考えとして **閉鎖的ではない空間（通路幅や明るさなどに配慮）。**

※すべてを満たすことは難しいため、物件ごとに検討が必要です。

事例紹介

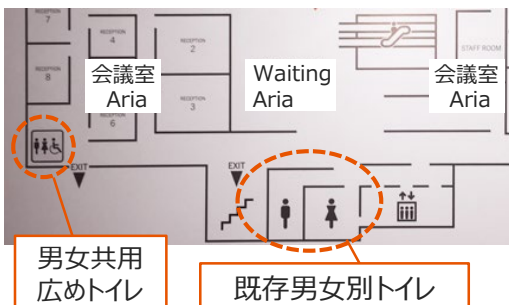
「LIXIL施工事例」で検索！ ※PDFでは、事例名称をクリックすると詳細シートがご覧いただけます。

LIXIL WINGビル HIKARI 2F（LIXIL日本社ビル）

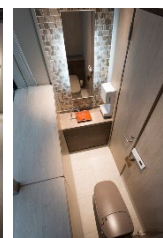


*LIXIL本社は、2022年11月に移転しました。
*情報は、2022年までのものです。

- 2020年5月、お客さまとの打合せに使用する会議室フロアとしてリニューアルオープン。
- 既存の男女別トイレは残し、改装時に不要となった部屋をトイレに改造。**「男女共用広めトイレ」を大小2個室新設**（うちひとつは車椅子対応）。
- タイル壁の内装、グレードの高い機器の採用などで、**よい意味での差別化**を図っている。
- 会議室フロアに設置した利点：所属部署に関わらず、**すべての従業員が利用可能。**
打合せなどの「ついで」に利用できるため、**利用が不自然にならない。**



▲ Waiting Aria



▲ 広めトイレ (小)



▲ 広めトイレ (大・車椅子対応)

このように「男女共用広めトイレ」を設置すれば、**一定のニーズを満たす**と考えられる。しかし、中には「**特別感**」を抱く人もいるかもしれない。

NEXT STEP : パターン4

- ✓ 車椅子ユーザー、オストメイト、乳幼児連れなどに配慮したトイレ（バリアフリートイレ）、男女別、男女共用の**個室をそれぞれ設け、利用者が選択できるようにする。**
- ✓ 男女共用トイレの「特別感」が薄れ、**より平等に選択できる可能性**がある。
- ✓ 男女共用トイレに抵抗がある人に配慮し、**男女別の選択肢も残す。**
- ✓ 新しい試みであるため、**課題もある。**

事例紹介

「LIXIL施工事例」で検索！

※PDFでは、事例名称をクリックすると詳細シートがご覧いただけます。

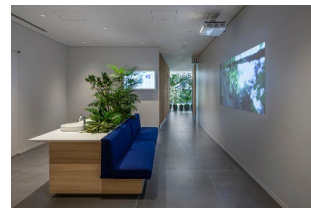


1) カスミ筑波大学店（商業施設の事例）

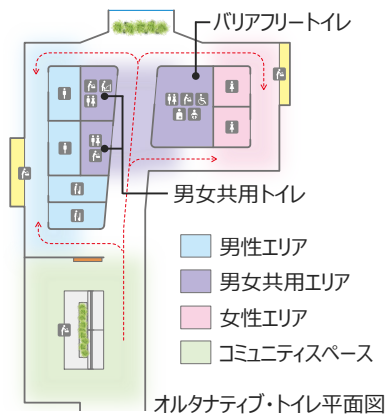
- 筑波大学構内のスーパーマーケット（2018年9月竣工）。
- **すべて手洗い器付の「個室完結型トイレ」**で、多機能、男女別トイレが各1室、男女共用トイレが2室ある。
- トイレ空間出入口に「案内図」を設置し、「わたしらしく、My Restroom」と題したコンセプト文を掲載。

2) LIXIL WINGビル HOSHI 1F（オフィスの事例・LIXIL日本社ビル）

※LIXIL本社は、2022年11月に移転しました。情報は2022年までのものです。



- 2019年10月に完成した、LIXIL新棟（当時）の1Fトイレ。選択式の個室トイレであり、「**オルタナティブ・トイレ**」と命名。
- 手前にコミュニティスペース、中央が男女共用エリア、左が男性エリア、右が女性エリア。**男女の明確な区切りはなく、ゆるやかにゾーニング。**
- トイレ空間入口に、空き状況を知らせるサインージと共に「**自分に合った個室をお選びください**」というメッセージを掲載。



課題の例

- ✓ 壁で仕切られた個室の場合、扉の重量などから半開きの状態を保つことができないため、「常閉（＝常に閉まっている状態）」となる。そのため、**空室状況がわかりづらい**※1。
- ✓ どこにどのようなトイレがあるかわかりにくい（**情報のバリア**）。
- ✓ 個室内に手洗い器を設置した場合、**滞在時間の延長**が懸念される。
- ✓ 「**男女共用トイレ**」の**器具数の算定方法が確立されていない**※2。

参考：オルタナティブ・トイレに至る経緯

○建築雑誌「新建築」2017年5月号

特集：公共空間における個人の自由を求めて

建築学者でもある建築家の監修のもと、3名の建築家とジェンダー・ニュートラルなトイレ※3について様々なトライアルに基づいた議論を行い、これからのパブリックトイレのあり方について考察。

※性的に中立なトイレ、性別不問のトイレのこと。現在はオールジェンダートイレという表現が主流となりつつある。



- ✓ 3名の建築家によるアイデアはすべて面白く、かつ革新的。
- ✓ オフィスに限らず、「トイレ」に対する意識の高い女性の視点を入れたい。

➡ 次のステップへ向けて、3名のうち女性建築家の永山祐子氏（永山祐子建築設計）へ協力を依頼

※1. サインージ等での空室表示のほか、使用状況がわかりやすい鍵や、個室内の照明の点灯状況がわかる小窓を扉に付けるなどの工夫が求められる。

※2. 男女共用個室の数は、トイレの器具数算定時に一般的に用いられる【空気調和・衛生工学会の「適正器具数算定法」】にて、利用者をすべて女性と仮定して算出する方法が考えられる（占有時間90秒）。ただし、個室の中に手洗い器を設けた場合に基準となる占有時間はない。また、小便器がない場合は回転率が下がると考えられる。なお、男女で個室を兼用することで器具数を減らせるという考え方もあるが、異性とトイレを共有することに抵抗がある人が、男女共用トイレが空室でも利用しないというケースも発生しうるため、単純に数を減らしてよいとはならない。

参考：オルタナティブトイレに至る経緯



○ジェンダーニュートラルトイレの試み：永山氏の「ラボトリー」のすゝめ※1

- ▶ トイレを見直すことで新たな空間が生まれる、という提案。
男女共用化することで洗面や待ち合いが減る。それが、省スペース化に繋がり、新たな共有空間「ほっとスペース」が生まれる、という考え方。
- ▶ 男女共用であることへの配慮として、用足しから手洗いまでできる個室完結型トイレとし、トイレ空間内はワンウェイの一方通行の動線として「すれ違い」を少なくするなどの工夫を凝らしている。

➡ すべて男女共用とした場合、果たして女性が使えるか？

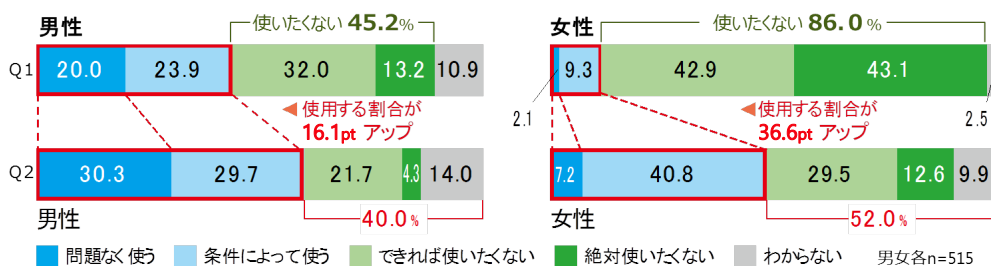
○男女共用トイレに関するアンケート結果

オフィストイレに関する意識調査2017（LIXIL）にて、男女共用トイレについて尋ねたところ、

- ▶ 男性の45%、女性の86%が男女共用トイレを「使いたくない」と回答。
- ▶ 新建築プランは「使う」と回答する人が増えるものの、男性の40%、女性の52%が「使いたくない」と回答。という結果に。

Q1. あなたのオフィスのトイレが、今後すべて男女共用トイレになった場合、どのように思いますか。（単一回答）

Q2. あなたのオフィスのトイレが、新建築プランのジェンダーニュートラルトイレになった場合、どのように思いますか。（単一回答）



➡ そこで、誰もが選択可能な、平等に開かれた「オルタナティブ・トイレ」を提案



オルタナティブ・トイレ コンセプト（2017年LIXIL展示会）

1) 2つの個室群によるコーナー分け

※オルタナティブ（=alternative）とは、「新しい選択肢」の意。

中央の通路に面した男女共用トイレに加え、それぞれの個室群の裏側に男女別トイレを設置することで選択性を高める。

2) 個室完結型とし、共用には機能を付与

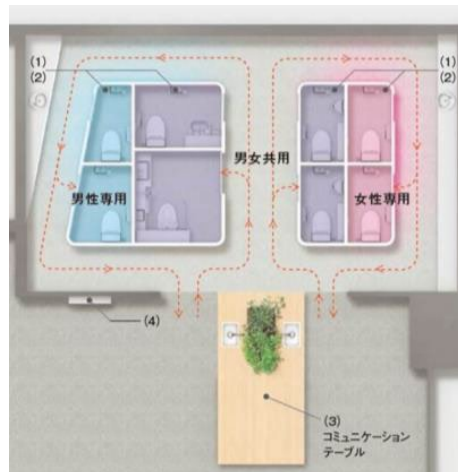
すべて、手洗い器を設置した「個室完結型」のトイレ。男女共用には、車椅子で利用できる広さ、オストメイト対応流しやおむつ交換台などの機能を付与し、必要に応じて選択できるようにする。

3) コミュニケーションスペースの創設

男女共用トイレにすることで必要なスペースが減り、トイレ空間が縮小。その代わりにコミュニケーションテーブルを配置した、新たな共有スペースを創出。

4) 入室システムの導入

入退室をセンサーで管理し、画面で確認することで待合を減らし、人の動きを円滑にする。



➡ この考え方をベースとして、LIXIL本社※2に実際に利用可能なトイレの設置が実現した。